

「金魚の糞」 2013年版 XT2IVU

北井 十生 JA3IVU

まえがき

2013年 2月 19日から3月 4日まで西アフリカ「ブルキナファソ」へ出かけました。

昨年に引き続き、中野幸紀 (JA3VWT) 教授から「ブルキナファソへ今年も行くぞ・・・」のお声かけに東條さん (JH3AEF)、宮川久仁雄さん (JA1CJA)、関学生の浅野雄介さん (JP3FIA) の5人が出掛けてきました。

昨年秋以来の、アルジェリアのイナメナスでの天然ガス関連施設で起きた事件、また隣国マリでのテロなど西アフリカは今までにない緊張感に包まれた。

西アフリカ電波利用促進国際協力研究センター (CRIOR) の主宰者である関西学院大学 中野幸紀 (JA3VWT) 教授はあらゆる方法を駆使して、外務省、フランス、ブルキナファソなどで現地の情勢の把握に努めた。

その結果、安全を最優先し予定した行程を変更し実施することとなった。

今回の現地調査チームは、関西学院大学 中野幸紀 (JA3VWT) 教授、東條純一さん (JH3AEF)、宮川久仁雄さん (JA1CJA)、北井十生 (JA3IVU)、関西学院大学 学生 浅野雄介さん (JP3FIA) の5人となりました。当初、2011年に参加された西尾さん (JO3XYZ) が参加希望されていましたが仕事の関係上参加できませんでした。

また、昨年末以降からドル、ユーロが円安となり1ユーロ 95円だったのが2月 19日の両替ときは 129円になっていました。パリ ワガドゥグ間の航空運賃は円安前に購入していたためなんとか助かりました。(羽田 - パリ間は円建てのため影響なし)

準備編

前にも記述しましたが、昨年 11月から、航空券の手配、黄熱病の予防接種と無線従事者免許証及び無線局の英文証明、入国ビザの取得、リグ、アンテナ、同軸ケーブル、電源、PCなどの無線運用機材、食料品、衣類、薬などの生活用品 (特に電池式蚊とり)、などは昨年の経験を生かし、また航空機に乗せる重量制限もあり、できる限り軽く、小さく、必要最小限の荷物としました。

また、昨年、ブルキナファソ・アマチュア無線連盟 (ARBF) 会長の XT2HB Hugolinn Pooda さんから次ぎに来るときには是非、古都「ボボ・ディラソ」にある実家を使って下さいとの提案があったのでこの場所をお借りすることで準備に入った。ボボ・ディラソはブルキナファソの首都であるワガドゥグから西へ約 350km あり、サバンナの中を車で約 6時間かかる。

1 アンテナ・リグ関係

SSB、CW、RTTYでの運用を目指すこととして特にCWのできる方として私の友人の宮川さんに参加を呼びかけたところ快く承諾していただきました。そうなるこの3つのモードが同時運用できるようアンテナ、リグ等を準備することとなりました。

まずはアンテナ HFのハイバンド用はビームアンテナをということでスパイダービーム (4エレ相当) を一度立ててみようということで昨年 12月 22日、朝から小雨降る寒い 関西学院大学 三田キャンパスでの「中野ゼミ」の電波利用講座の一つとして大学構内でWARCバンド用であったが組み立ててみた。このアンテナは今年の1月にスリランカで使用されたもので一度組み立てられたものをたたみ、再度広げる作業であったが 10MHz帯が入っているため一辺が 12mほどの大きさになり、組み立てにも3時間ほどかかった。使用結果は満足であったが大きさ、重さから持参することを諦めた。



関西学院大学 三田キャンパスでのスパイダービーム組み立て

つぎは三マルチのHX52Aだ。このアンテナは一昨年、東條さんが持参し、組み立て、調整が簡単なことからもう一本、持参することとし、出掛ける直前の2月 9日、関ハム会場でもある池田市民会館の横の広場で組み立てを行った。アンテナを組み立てていると会館の方が来られたがアマチュア無線をよくご存じで使用を快諾していただいた。

リグ IC7200 2台 TS480HX、FT897、FT817各1台 リニアアンプ IC2KL 1台

アンテナ HX52A(14-28)、HEX BEAM(14-28)、ローバンド用ワイヤ等 (1.8, 3.5, 7, 10)

持参した。

あとC7200、IC706 各1台、リアアンプ HL550FX 1台、アンテナ HX52A ハーチカル 21MHz用デルタループはXTにて保管されている機材を使用することにした。

連絡用として430MHz帯用携帯機を各人 1台持参した。同時運用が出来るようJA3AOP杉山さんから隣接Bandで40dB以上の損失があるバンドパスフィルタをお借りした。

2 航空券の手配、黄熱病の予防接種、無線従事者免許証及び無線局の英文証明、入国ビザの取得関係

パリでの宿泊を不要とするため深夜便の 01時 30分 羽田発とし、大阪 - 羽田 パリ ワガドゥグの経路としてワガドゥグに同日の夜 到着の予定とした。

入国ビザは中野さんにお願ひし、東京の在日ブルキナファソ大使館まで出かけられて取得していただきました。

宮川さんと浅野さんは黄熱病の予防接種と無線従事者免許証及び無線局の英文証明を取得した。

3 ブルキナファソでのアマチュア無線の運用許可関係

ブルキナファソでの申請書の作成、日本の英文証明、持ち込む予定の無線機の英文パンフレットなど中野 (JA3VWT) さんからARBF会長 XT2HB Hugolinn Poodaさんへ送付された。

前編

いよいよ出発の日、2月19日(火)が来た。

伊丹から、JAL便で東條さん(JH3AEF)、北井(JA31VU)は羽田へ、宮川さん(JA1CJA)はANA便で羽田へ、浅野さん(JP3FIA)は羽田経由成田へ。

東條さんと北井は18時30分予定とおりに羽田到着した。ところが私たちより早く着いているはずの宮川さんがいない。電話連絡があり伊丹を予定とおりに離陸したが30分ほど飛行したらトラブルが発生し伊丹に引き返したので羽田到着が2時間ほど遅れるとのこと。(30分も飛んだら伊丹より羽田の方が近いと思うが……)

羽田出発まで時間があるので多少送れても大丈夫。余裕を持って伊丹を出発してよかったよかった。

中野先生(JA3VWT)は大学の事情により出発が2月24日となりブルキナファンで合流することとなった。

フランス語のできる人がいないためちょっと不安???

東條さんと北井が連絡バスで国内線から国際線に行くと中野さんがお待ちだ。早速、自宅から羽田まで送っていた手荷物を受け取り、JALのカウンターでチェックイン、東條さんが手荷物3個、北井が2個(22.6kg×2)、パリで手荷物をスルーにしてワガドゥグまで無事に手続き終了。手荷物に入らなかったIC7200と電源と同軸30mを機内持ち込みとした。

20時前に宮川さんが羽田の国際線へ到着し同じように荷物を受け取り、JALのカウンターでチェックイン、ここでも無事終了。

4人で軽い夕食をして、中野さんが国内線で伊丹へ。

日が変わり2月20日(水)の01時30分発まで時間がたっぷりありどこへ行くこともなく出国。中に入ると大勢の人たち、アメリカ方面など便があるがパリ行きが最終便だ。01時ころやっと搭乗開始、3人とも通路側で近くの席を確保した。

羽田から国際線に乗るのは実に1978年以来(新東京国際空港(成田)開港の年)でした。

離陸後、しばらくすると夕食が出た。羽田での夕食は軽食にしたので全部頂いた。私のとなり席は女性が二人、ひとりには初めてパリにブライダルフラワーの勉強に行く方とICAの派遣でセネガルから一時帰国をしていてダカールに戻る方でした。ブルキナファンを知っていますかと聞いたところワガドゥグに行ったことがありますとのこと。世間は狭いです。

うとうとしているうちにパリ近くまで飛んできた。朝早い朝食が出た。6時前にパリCDGに着陸。出ると03時ころに成田から着いた浅野さんが待っていた。荷物は聞くとスルーにするのを忘れていたとのこと。これはたいへん。もう到着してから3時間以上経っている。みんなで一度入国して荷物を取ってまた出国するかと考えたが浅野さんがひとりだけで出来るといので出国したところで3人が待っていることにした。がしかなかなか出国口に現れない。1時間ほどたったころガラス越しに浅野さん姿が見え3人ともホッとした。4人揃ったところでもう一度ワガドゥグ行きの搭乗ゲートを確認した。あら又変わった。予定された搭乗ゲートのあるターミナルMへ。ターミナルビルの中央部が飲食、休憩広場があり10時ころとなったので又4人で軽食をとった。帰り先またこのターミナルのようなのでお店を物色した。

午後になると人が増え、中には日本人がいた。フライト表示を見ると関空行きのAF便があった。14時発なのでもう一度搭乗ゲートを確認するとまた変わっている。関空行きのゲートの近くだった。帰りの搭乗ゲート(?)を確認しながらワガドゥグ行きのゲートへ搭乗して出発時間となったがなかなか動かない。35分遅れでやっと動き出し

た。スペイン、地中海、アルジェリア上空を飛び、ニジェールのニアメーに着陸し乗客を降ろしたあと20時半ころブルキナファンのワガドゥグ国際空港に着陸した。あれ～街路灯がついている。今年も停電はないらしい?? そうこうしているうちにタラップが横付けされバスに乗った。

暑い風が……今年はこの時期にアフリカ映画祭が開催されているので昨年より人が多い。また警備も厳重になっていた。空港ターミナルビルの入国審査入口にPoodaさんがいた。アメリカと同じように顔写真と指紋を撮られた。作業に慣れていないのか時間がかかってしまった。税関検査は無事通過し出口に日本ブルキナファン友好協会現地理事で今回の調査の世話をさせていただく飯田さんが出迎え。私たちの荷物を運び迎えの車へ、後部座席まで荷物に乗せて、2月20日(水)22時すぎやっと今日の宿泊先である「パレスホテル」に着いた。

2月21日(木)、朝食のため1階のレストランへ。まず近くスーパーへ買い出し、水と飲み物など買い出し迎えの車に乗せて、まず在ブルキナファン日本大使館へ表敬訪問し、今回の調査の目的、意義など説明した。

その後、銀行で両替、ブルキナファンアマチュア無線連盟(ARBF)会長 XT2HB Hugolinn Poodaさん事務所に行き、事前に依頼していたブルキナファン電子通信管理局(ARCEP)からのアマチュア無線の運用許可をいただいた。

がPoodaさんはなかなかボボ・デュラスへ出発しない。Poodaさんの車を後付いて行くとイタリアチームXT2TTが運用しているOK Innへ、イタリアチームにご挨拶、島本(JA3USA)さんの姿も。

イタリアチームXT2TTのアンテナ



ワガドゥグを出発したのは14時前だった。

Poodaさんの車に東條さんが乗り14MHzでオンエアしたが1局も出来ず。途中で車を止めSWRをみたら3以上あった。昨年、調整しておいたはずだが……再度調整をしたがやはり1局もできず。ボボ・デュラスのPoodaさんのお宅に着いたのは暗くなり19時になっていた。

到着すると宿泊する部屋に案内された。寝室は1階に3室、2階に2室、そのほか2階に15畳ほどと8畳ほどの部屋があった。運用する部屋を2階の2部屋とし、寝室は1階に宮川さんと浅野さん、2階に東條さんと北井が使用するになった。

パリCDGでワガドゥグ行きを待つ 左から浅野さん、東條さん、宮川さん



それぞれの室に荷物を運び終わると夕食の準備が出来ていた。
 今夜の夕食は チキン、ご飯、かきあげ風天ぷらなど 明日からの設営、運用の話に花を咲かせながら頂いた。

2月 22日 (金)

朝、5時前から「コーラン」が街に流れている。
 朝食前に、リグなどを開梱し 机の上に並べる。朝食はフランスパンとコーヒー、紅茶で済ませ、アンテナをどう立てるか
 と相談、HX52Aを2段式のクランクアップタワーに、HEX BEAMと21MHz用デルタループを裏庭に、LWを2階のテラスから塀に取り付けた約6mの三角タワー 2本を使い 42m展張、パーチカルは門に設置することとした。

まずは、東條さんがHX52Aを、宮川さんと浅野さんと北井がHEX BEAMを組み立てることとした。クランクアップタワーに設

置されている3エレハ木の撤去してHX52Aを取り付けるのだがタワーの細い先端にマストがついているためマストクランプに手が届かない。安全ベルトがないため急きょ太そうなロープで安全ベルトの代替えを作った。

Poodaさんのお家の方がタワーに登り何とか3エレハ木を下ろした。次にHX52Aを取り付けるのだがなかなかうまく進まない。なんとかマストの最上部にHX52Aを取り付けたがローテータが回転できないため(制御ケーブルがないため)ショートパスでJA方向に固定した。SWR特性は各バンドとも1.5以下で良好だ。

後、Low Band用の42mのLWとパーチカル(14, 21, 28用) 7MHzのダイポールを展開した。

裏庭ではHEX BEAMを3人で組み上げたが長さ調整がうまくなくなんとなくバランスが悪い。5mほどに上げSWR特性を見ると14MHzは良いが他のバンドよくない。

三マルチHX52A (14,18,21,24,28用) を上げているところ (タワーの途中に東條さんが)



裏庭に設置したHEX BEAM (14,18,21,24,28,50用) 左奥はUFOではなく給水塔です